

# 第148期 中間報告書

平成27年4月1日～平成27年9月30日



豊かな社会へのパートナー 神栄グループ

## 神栄株式会社

証券コード：3004

ごあいさつ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、第148期中間期(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)の事業の概況につきまして、報告申し上げます。

今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年11月

代表取締役社長 **小野 耕司**



## 当中間期の業績

当中間期における世界経済は、米国では住宅市場と雇用環境が改善傾向で景気回復基調が持続しましたが、中国及び東南アジアにおいては経済成長の減速傾向がより鮮明となりました。

一方、わが国経済は、日銀による金融緩和策を背景として企業収益や雇用環境が改善し、個人消費も持ち直しの動きがみられるなど緩やかな景気回復基調にあるものの、円安による輸入原材料価格の上昇や中国経済の減速による影響も懸念されるという状況にありました。

当社グループにおきましては、平成26年4月からの3年間で新たな発展のための基盤作りと位置付けた中期経営計画WAVE“10”をスタートさせており、会社創立130周年を迎える平成29年度に向けて、事業基盤を確立させて収益力を高め、財務体質を確固たるものにし、企業価値の更なる拡大を目指すべく取り組んでおります。

当期間における当社グループの売上高は、(株)ブランドィの子会社化や食品関連の増加があったものの、電子関連が大幅に減少したことにより、全体では前年同期比2.1%減の21,034百万円となりました。

一方、利益面におきましては、食品関連において水産品の原料価格高騰により利益率が低下したことや、電子関連においてホコリセンサ・ガスセンサが納入先メーカーの生産調整の影響により取扱いが大きく減少したことから、全体では営業利益は130百万円(前年同期比61.9%減)、経常利益は107百万円(前年同期比57.7%減)となりました。また、特別損失に弁護士報酬等を計上したことにより、親会社株主に帰属する当中間期の純利益は19百万円(前年同期比86.8%減)となりました。

## 当期の業績見通しについて

今後の世界経済は、中国の景気減速が継続し、その影響で新興国などの景気も悪化することが予想される中、米国は景気回復基調が持続するものと思われま

す。わが国経済は、中国経済減速を受け、輸出が伸び悩むことが予想されるものの、堅調な企業収益や所得環境の改善により、景気は緩やかな回復傾向が継続するものと思われま

す。このような状況下、当社グループは高付加価値分野への拡大を目指した価格戦略の見直しを重点施策とした収益力の向上と財務体質の改善に取り組んでおります。

下期におきましてもこれらの取り組みを積極的に推進することにより、事業基盤を確立させて収益力を高め、財務基盤を確固たるものにし、株主の皆さまのご期待に沿えるよう邁進いたします。

また、将来に向けた人材基盤のさらなる確立にも取り組んでまいります。

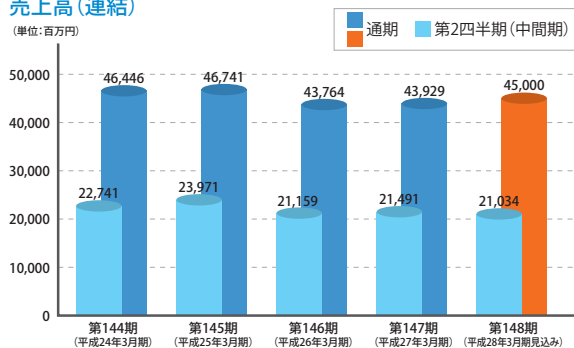
当期の通期連結業績といたしましては、売上高45,000百万円、営業利益620百万円、経常利益450百万円、親会社株主に帰属する当期純利益250百万円を見込んでおります。

今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 財務ハイライト

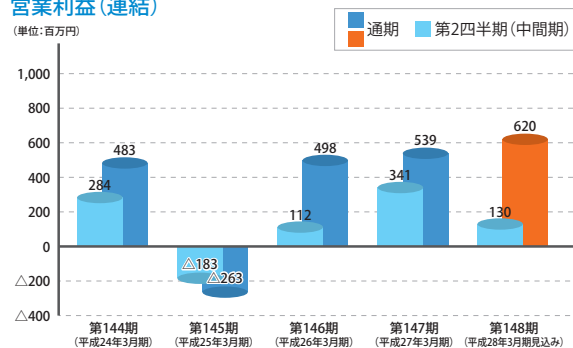
## 売上高(連結)

(単位:百万円)



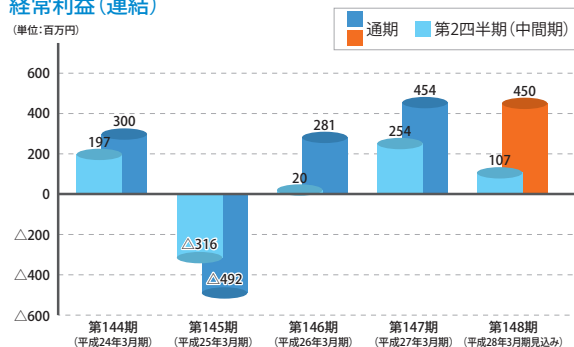
## 営業利益(連結)

(単位:百万円)



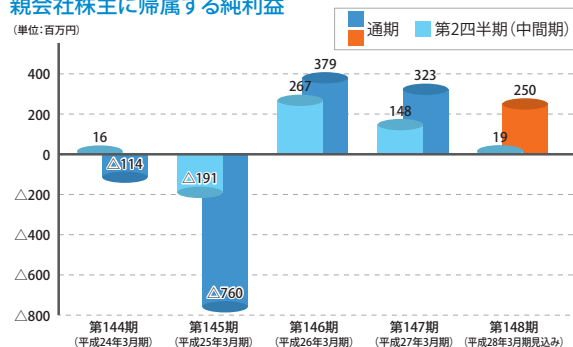
## 経常利益(連結)

(単位:百万円)



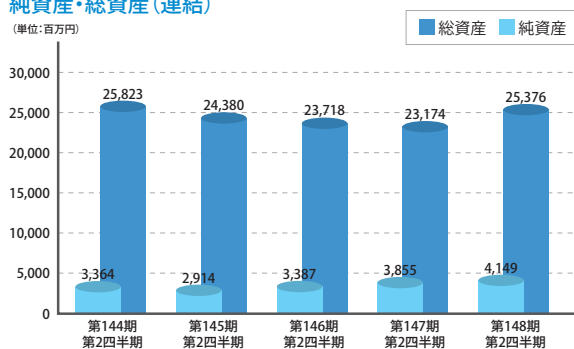
## 親会社株主に帰属する純利益

(単位:百万円)



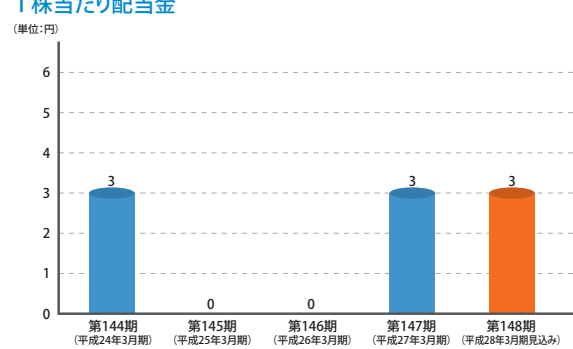
## 純資産・総資産(連結)

(単位:百万円)



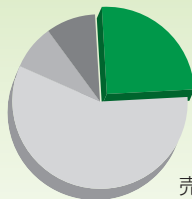
## 1株当たり配当金

(単位:円)



## 事業分野別の概況

# 織 維 関 連



売上高

- 売上高 5,313百万円
- セグメント利益 7百万円



PATTERN  
fiona

繊維業界では、消費動向は緩やかながらも回復の兆しが見え始めたものの、春先や秋口の天候不順による購買意欲の低下及び中国における原料費・人件費の高止まりや円安による

コスト高も続くなど厳しい環境にありました。

当社グループのアパレル卸売分野では、企画提案機能の強化や新規顧客開拓に注力しましたが、不採算取引の解消もあり取扱いは減少しました。一方、中国主力工場との取組み強化により仕入コストの低減を進めたことで利益率がアップし、経費の削減にも努めた結果、採算面では改善しました。

アパレル小売分野においては、ファッショントレンドが一層多様化する中、経費削減に加えて商品企画や店舗運営の見直しによる

効果が一部あったものの、不採算店舗の退店及び不振ブランドの縮小に加え、天候不順の影響により取扱いが減少したため、採算面でも厳しい状況が続きました。

ニット生地分野では、アパレル・資材・スポーツ用途共に小ロット化により荷動きが低調で、オリジナル生地開発による新規開拓が伸ばせず、取扱いは減少しました。

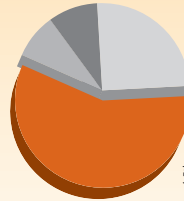
また、レッグウエア分野においては、(株)グランディの子会社化や提案商材の伸長により取扱いは増加し、採算面においても価格の見直しと物流効率化に伴う経費削減により改善しました。

その結果、繊維関連の売上高は5,313百万円(前年同期比8.7%減)、セグメント利益は7百万円(前年同期は69百万円の損失)となりました。



(株)グランディ オリジナルブランド  
フィットクロス

# 食 品 関 連



売上高

- 売上高 12,086百万円
- セグメント利益 610百万円



食品部 取扱商品(調理例)

食品業界の輸入食材を取り巻く環境は、中国をはじめとする仕入国での工場経費や原料代の上昇に加え、期中の為替動向により仕入コストも不安定な状況にありました。

当社グループの冷凍食品分野では、冷凍野菜については天候不順による国産野菜の不作を受けた需要の増加に対応し、さらに品質面での高い評価を受け取扱いは伸長し、採算面でも改善しました。冷凍調理品については、シェア拡大を優先して取り組んだことや提案型営業を強化したことで取扱いは伸長しましたが、価格競争が厳しく採算面

は僅かながら悪化しました。冷凍水産加工品については、高付加価値商品に対する取組みを強化することによって取扱いは伸長しましたが、世界的な需要の増加による原料価格の高騰などにより採算面では大幅に悪化しました。

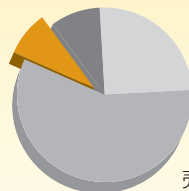
農産分野では、天候不順による生産量の減少や円安による価格高騰により、落花生の取扱いは減少しましたが、健康志向の影響で人気の高まっているナッツ類は堅調に推移しました。

その結果、食品関連の売上高は12,086百万円(前年同期比7.9%増)、セグメント利益は610百万円(前年同期比18.7%減)となりました。



農産部 取扱商品

# 物 資 関 連



- 売上高 1,744百万円
- セグメント利益 74百万円

売上高



(株)新協和 取扱商品(室内物干金物 アルミ製)

建設業界は、インフラ整備を中心に需要の増加傾向が続いている一方で、マンション建築関連は消費増税後の落ち込みが続いている状況にありました。

当社グループの建築金物・資材分野は建築関連市場の回復が見られない中、取扱いは僅かながら減少となり、生活用品分野につきましても、円安による輸入製品のコスト競争力の低下で取扱いが減少しました。

機械機器・金属製品分野では、ロシア向けアスファルトプラントは、ロシア情勢の影響による厳しい市場環境が続き採算面が悪

化しましたが、北米向けのベアリングなどのハードウェア輸出が堅調に推移し、各種試験機においてもメキシコを含む北米市場向けが順調に拡大し円安の影響で採算面も改善しました。

防災関連分野については、前連結会計年度から継続対応している案件の計上により堅調に推移しました。

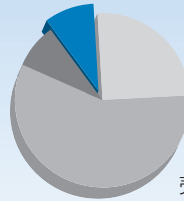
その結果、物資関連の売上高は1,744百万円(前年同期比7.7%減)、セグメント利益は74百万円(前年同期比65.9%増)となりました。



産業資材部 取扱商品(ナイロン毛材)



# 電子関連



売上高

- 売上高 1,889百万円
- セグメント利益 96百万円



露点計  
Dew Star S-1

電子部品業界は、国内では高性能携帯端末や自動車用途が好調を

持続し、猛暑の影響を受けてエアコン等家電製品向けの需要についても好転しました。また、海外では北米向けが堅調に推移しており、さらに新興国においても需要増が続きました。

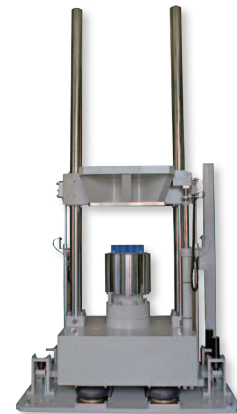
当社グループのコンデンサ分野では、調理家電用途が中国をはじめとする海外向けを中心に採算面で改善したものの、新エネルギー用途が電力の固定価格買取制度の変更で需要が停滞するなど、取扱いについては全体的に大幅に減少しました。

センサ関連機器分野では、空気清浄機用ホコリセンサやガスセンサが、納入先のメー

カー各社の生産調整により特に中国市場向けの取扱いが大きく減少し、採算面も悪化しました。また、湿度センサにおいても、製造機能の集約等、原価低減の取組みを進めましたが、業界内での競争が激しく苦戦いたしました。

落下・衝撃試験機分野では、新たに子会社を設立、本社社屋が竣工し、新経営体制のもと一層の事業拡大に向けた取組みを始めしております。

その結果、電子関連の売上高は1,889百万円（前年同期比26.8%減）、セグメント利益は96百万円（前年同期比61.9%減）となりました。



衝撃試験機  
MDST Series

## 第2四半期連結財務諸表

### 》第2四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前決算期	当第2四半期	科 目	前決算期	当第2四半期
	平成27年3月31日 現 在	平成27年9月30日 現 在		平成27年3月31日 現 在	平成27年9月30日 現 在
( 資 産 の 部 )			( 負 債 の 部 )		
流 動 資 産	15,433	16,311	流 動 負 債	13,662	14,173
固 定 資 産	8,573	9,043	固 定 負 債	5,845	7,053
有形固定資産	4,098	4,607	負 債 合 計	19,508	21,227
無形固定資産	157	145	( 純 資 産 の 部 )		
投資その他の資産	4,317	4,290	株 主 資 本	3,356	3,262
繰 延 資 産	2	21	資 本 金	1,980	1,980
			資 本 剰 余 金	1,049	1,049
			利 益 剰 余 金	726	633
			自 己 株 式	△399	△399
			その他の包括利益累計額	1,144	882
			その他有価証券評価差額金	1,121	1,017
			繰延ヘッジ損益	38	△83
			為替換算調整勘定	△15	△50
			非支配株主持分	-	3
			純資産合計	4,501	4,149
資 産 合 計	24,009	25,376	負債純資産合計	24,009	25,376

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 》第2四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期	当第2四半期
	平成26年4月1日から平成26年9月30日まで	平成27年4月1日から平成27年9月30日まで
売上高	21,491	21,034
売上原価	16,937	16,784
売上総利益	4,554	4,249
販売費及び一般管理費	4,212	4,119
営業利益	341	130
営業外収益	81	140
営業外費用	168	163
経常利益	254	107
特別利益	63	154
特別損失	3	205
税金等調整前四半期純利益	314	56
法人税、住民税及び事業税	40	31
法人税等調整額	125	5
法人税等合計	166	37
四半期純利益	148	19
親会社株主に帰属する四半期純利益	148	19

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 》第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期	当第2四半期
	平成26年4月1日から平成26年9月30日まで	平成27年4月1日から平成27年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△433	△917
投資活動によるキャッシュ・フロー	△61	△204
財務活動によるキャッシュ・フロー	375	973
現金及び現金同等物に係る換算差額	△21	△7
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△141	△156
現金及び現金同等物の期首残高	1,661	1,443
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,520	1,286

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 第2四半期個別財務諸表

### 》第2四半期個別貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前決算期	当第2四半期	科 目	前決算期	当第2四半期
	平成27年3月31日 現 在	平成27年9月30日 現 在		平成27年3月31日 現 在	平成27年9月30日 現 在
( 資 産 の 部 )			( 負 債 の 部 )		
流 動 資 産	12,939	13,693	流 動 負 債	13,636	14,138
固 定 資 産	10,618	10,978	固 定 負 債	5,564	6,448
有形固定資産	2,491	3,007	負 債 合 計	19,201	20,586
無形固定資産	125	112	( 純 資 産 の 部 )		
投資その他の資産	8,001	7,859	株 主 資 本	3,201	3,126
繰 延 資 産	2	21	資 本 金	1,980	1,980
			資 本 剰 余 金	1,049	1,049
			利 益 剰 余 金	571	497
			自 己 株 式	△399	△399
			評 価 ・ 換 算 差 額 等	1,158	980
			そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	1,119	1,011
			繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	38	△31
			純 資 産 合 計	4,359	4,107
資 産 合 計	23,560	24,693	負 債 純 資 産 合 計	23,560	24,693

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 》第2四半期個別損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期	当第2四半期
	平成26年4月1日から平成26年9月30日まで	平成27年4月1日から平成27年9月30日まで
売 上 高	16,959	13,716
売 上 原 価	14,473	11,631
売 上 総 利 益	2,485	2,084
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	2,282	2,023
営 業 利 益	202	61
営 業 外 収 益	290	367
営 業 外 費 用	186	197
経 常 利 益	306	231
特 別 利 益	52	93
特 別 損 失	—	267
税 引 前 四 半 期 純 利 益	358	56
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	21	4
法 人 税 等 調 整 額	72	13
法 人 税 等 合 計	94	18
四 半 期 純 利 益	264	38

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(注) 四半期個別財務諸表は、四半期財務諸表等規則に基づき当社が任意で作成したものであり  
法定開示におけるレビューの対象ではありません。

トピックス  
1

## 農業関連事業の中核拠点 の新設

神栄グループ

9月25日、神栄アグリテック(株)の農舎の隣に「神栄グループあわら農業センター」を開設いたしました。同センターにおいては、当社グループの農業関連の研究開発を更に進めていくと共に、近隣農業関係者との交流や情報交換も行います。

また、神栄アグリテック(株)においても、今まで別の拠点で対応してきた事務・管理機能を同センターに集約し、効率よく農業事業を進めていく体制が整いました。

同センターを中核拠点として、当社グループの農業及び関連事業を更に拡充してまいります。

住所：福井県あわら市牛山第3号113番地  
TEL. 0776-78-7820  
FAX. 0776-78-7822



トピックス  
2

## タイ王国に現地法人を 設立

食品本部

タイ王国・バンコク市に子会社「Shinyei (Thailand) Co., Ltd.」を平成27年7月1日に設立し、10月1日より営業を開始いたしました。

同社では、安全・安心な冷凍食品を、まずはタイ国内で販売し、将来的には他の東南アジア諸国などに販路を広げていくことで、食品事業のグローバル展開を進めてまいります。また、タイを中心とした東南アジア諸国は食品の生産基地でもあることから、現地工場の開拓、生産・品質管理にも取り組み、日



本・中国・東南アジアの3極体制の構築を目指します。

2015年末に予定のASEAN経済共同体発足を受け、東南アジア地域は市場や生産体制を大きく変えようとしています。当社グループとしては、同社を活用することで、そのうねりに乗り事業の拡大につなげてまいります。

住所：Unit No. 1401/3, 14<sup>th</sup> Floor, Glas Haus Building, 1 Soi Sukhumvit 25, Sukhumvit Road, Klongtoey Nue, Wattana, Bangkok 10110 Thailand  
TEL. +66-2-258-2547  
FAX. +66-2-258-2548

トピックス  
3

## 業容拡大により事務所 移転

神栄(上海)貿易有限公司

1997年の設立以来、上海国際貿易センター18階の事務所を拠点に活動を続けてまいりましたが、従業員数が38名(内、上海勤務は27名)となり手狭となったことから、9月28日に事務所を移転いたしました。

移転先は地下鉄2号線の婁山関路駅により近く、周辺には大規模な商業施設もあり、便利な場所です。

なお、神栄商事(青島)貿易有限公司／上海分公司も一緒に移転いたしました。

住所：中国上海市長寧区遵義路107号 安泰大樓8階804室  
TEL. +86-21-6275-2308  
FAX. +86-21-6275-2474

トピックス  
4

## イオンレイクタウン (埼玉県越谷市)に出店

神栄ライフテックス(株)

神栄ライフテックス(株)の主力ブランド「PATTERN fiona」は、平成27年4月24日に、イオンレイクタウン(埼玉県越谷市)へ出店いたしました。

駅直結の人気ブランドが軒を連ねるゾーンという好立地でもあり、エリア初出店ながら、多くのお客様にご来店いただいています。

上品で落ち着いた空間の中で、丁寧な接客とトレンドを取り入れたアイテム展開により、お客様がショッピングを楽しんでいただけるよう、ブランド運営に注力してまいります。





トピックス  
5

## 2016年春・夏シーズン 靴下展示会の開催

(株)グランディ

(株)グランディでは、9月に2016年春・夏シーズンの靴下の展示会を東京・大阪のショールームで開催いたしました。

今回は、国民の健康志向に伴うランニング人口の拡大に着目し、一般社団法人日本ランニング協会とタイアップ、自社の持つ技術力、デザイン力を駆使して、ランニングに適したソックスなどスポーツ系高付加価値商品のラインナップを揃えました。多くの取引先にご来場いただき、商談を行いました。

今後これらの商品を新機軸としたビジネスを展開してまいります。



トピックス  
6

## 冷凍食品仕入先の拡充

神栄(株)食品部

冷凍食品分野では、より多くのお客様のニーズに応えるため、中国以外の国産や欧米・東南アジア等からの仕入先を増やし、商品の多様化を進めております。

今後も日本の厳格な品質要求に対応した商品の開発、仕入先の拡大により顧客満足を追求してまいります。

### 国産小松菜(カット)

収穫後すぐの小松菜をカットし、急速冷凍しました。新鮮なおいしさを様々な料理でお楽しみいただけます。



### 欧州産ポムデュセス

収穫したじゃがいもをすり潰し、それらを絞り出すことで渦巻き状の形になっています。見た目も可愛い商品となっています。



### インドネシア産 フライドスイートポテト

さつまいもをカットし、油で揚げて急速冷凍しました。さつまいも本来の甘みをご賞味いただけます。





トピックス  
7

## 建築材料・住宅設備総合展 (KENTEN2015)に出展

(株)新協和

(株)新協和は、6月10日～12日にインテックス大阪で開催の『建築材料・住宅設備総合展』に2度目の出展をいたしました。西日本最大級の住宅設備展示会で、来場者は約18,500人と前年よりさらに増え、同社ブースにも設計事務所、工務店、デベロッパーなどの来場者が多数来られ商談が進みました。

写真のとおり、ブース手前に蛍光カラーの消火器ボックス、ブース奥にドアハンドルを展示しましたが、中でも新製品の、弾力に富み強靱で抗菌性がある竹の素材を取り入れたドアハンドルは好評でした。

今後も製品企画開発力を強化して売上拡大に取り組んでまいります。



KENTEN2015 展示ブース

トピックス  
8

## コンデンサでオンリーワン 商品の実現

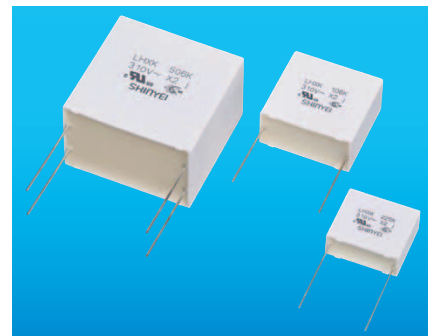
神栄キャパシタ(株)

神栄キャパシタ(株)では、アクロスコンデンサ[LHXK721]の海外規格認定を、従来の「 $2.2\mu\text{F}$ ～ $10\mu\text{F}$ 」から「 $2.2\mu\text{F}$ ～ $50\mu\text{F}$ 」の他社にない容量範囲まで拡大して取得し、世界でオンリーワン商品を実現させました。

アクロスコンデンサは、太陽光発電用パワーコンディショナーや、燃料電池・蓄電システム・UPS(無停電電源装置)などの電源に組み込まれ、機器に悪影響を与えるノイズや高周波を除去するために必要な重要部品です。

同社では従来には無かった大容量品をお客様へ提案することによって、今回、産業用ロボットやFA工作機械用の電源など、新たな市場へ販路を拡大することができました。

今後も高付加価値で魅力ある電子部品の開発に注力してまいります。



## 株式の状況

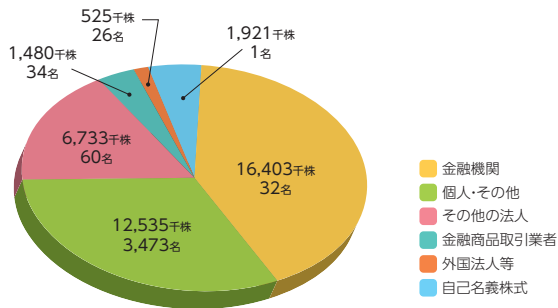
(平成27年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 120,000,000株
- 発行済株式の総数 39,600,000株
- 株主総数 3,626名
- 大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況 持株数(持株比率)
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	2,420千株 ( 6.42%)
株式会社三井住友銀行	1,875 ( 4.98 )
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,875 ( 4.98 )
株式会社みなと銀行	1,808 ( 4.80 )
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	1,738 ( 4.61 )
農林中央金庫	1,650 ( 4.38 )
舞原満博	1,505 ( 3.99 )
株式会社ノザワ	1,223 ( 3.25 )
日工株式会社	1,021 ( 2.71 )
株式会社さくらケーシーエス	1,010 ( 2.68 )

(注) 1. 上記の持株数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。  
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 1,738千株  
2. 持株比率は、自己株式数(1,921,256株)を控除して算出しております。

## 所有者別分布状況



## 会社概要

(平成27年9月30日現在)

- 社名 神栄株式会社(英文: SHINYEI KAISHA)
- 本社 〒651-0178  
神戸市中央区京町77番地の1
- 設立 明治20年(1887年)5月24日
- 資本金 1,980百万円
- 従業員(連結) 657名
- 取扱商品・製品・サービス(連結)
  - 繊維関連 繊維製品、原糸
  - 食品関連 冷凍食品、水産物、農産物
  - 物資関連 金属製品、機械機器、建築資材、  
建築金物、生活雑貨、不動産業、  
保険代理店業
  - 電子関連 電子機器、センサおよび環境機器、  
電子部品、測定機器、試験機
- 事業所
  - 支店 東京支店、福岡支店、香港支店
  - 研究所 神栄グループR&Dセンター  
神栄グループあわら農業センター
  - 海外事務所 北京、上海、ソウル、ホーチミン、  
アンカラ、イスタンブール、バクー

(注) 神栄グループあわら農業センターは、平成27年9月25日付で開設いたしました。

## 子会社

- 神栄テクノロジー(株)
- 神栄キャパシタ(株)
- 神栄リビングインダストリー(株)
- 神栄ライフテックス(株)
- (株)グランディ
- 神栄テストマシナリー(株)
- (株)新協和
- 神栄アグリテック(株)
- ShinYEI Corp. of America (米国)
- ShinYEI Kaisha Electronics (M) SDN. BHD. (マレーシア)
- 神栄商事(青島)貿易有限公司(中国)
- 神栄(上海)貿易有限公司(中国)
- ShinYEI (Thailand) Co., Ltd. (タイ王国)

(注) ShinYEI (Thailand) Co., Ltd.は、平成27年7月1日付にて設立した子会社であります。

## 役員

(平成27年9月30日現在)

代表取締役 兼社長執行役員	小野耕司
代表取締役 兼専務執行役員	赤澤秀朗
取締役 兼常務執行役員	高田清
取締役 兼常務執行役員	奥村聡
*取締役	萩尾千里
*取締役	福田正
常勤監査役	佐塚直隆
**監査役	大森右策
**監査役	藤本修
執行役員	中川太郎
執行役員	棟羽宏
執行役員	山水教賢
執行役員	谷口博一
執行役員	奥村武久
執行役員	長尾謙一

(注) \*印は、社外取締役であります。

\*\*印は、社外監査役であります。

## 単元未満株式の買増・買取請求について

単元未満株式を所有される方は、その単元未満株式の数と併せて1単元(1,000株)になる株式の数を、当社に対して買増の請求をすることができます。また、単元未満株式の買取請求につきましても、お取扱いしております。

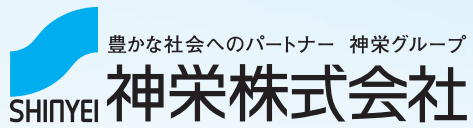
## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 基準日 定時株主総会 3月31日  
剰余金の配当(期末配当金) 3月31日
- 定時株主総会 毎年6月
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関  
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先  
(お問合せ先)  
〒541-8502  
大阪市中央区伏見町3丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
電話 0120-094-777 (通話料無料)
- 公告方法 電子公告  
当社ウェブサイト  
(<http://www.shinyei.co.jp/>)に掲載  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 証券コード 3004

※株主様の住所・氏名のご変更、配当金受取方法のご指定、単元未満株式の買取請求・買増請求などの各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社にお問合せください。

※特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。また、三菱UFJ信託銀行本支店においても、お取次ぎいたします。

※未受領の配当金につきましては、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



自然保護のため  
再生紙を使用しています。